



図書だより

本の紹介特別号

令和3年5月発行 白根巨摩中学校図書館

1年生も本格的に部活が始まっていますね。汗をかきながら空き時間に図書館を利用してくれる生徒もいます。新刊も続々と入ってきました。その一部を紹介します。貸出中の本は予約ができるので、図書館カウンターに声をかけてください。



「ヨンケイ」
天沢 夏月／著

慢性的な人数不足に悩む離島・大島の渚台高校陸上部に4人の男子スプリンターがそろった。インターハイ予選を控え、100×4リレー(四継)に挑むことになるが、メンバーの人間関係はサイアク…。4人のバトンが繋がるとき、胸が熱くなる青春スポーツ小説。



「団地のコトリ」
八束 澄子／著

父を亡くし、母と二人暮らしをしている美月は、バレーボールに青春をかける中学3年生の女の子。ある日、階下の独居老人の部屋に女の子の気配を感じて…。居所不明児童の問題を、中学生の少女の視点から描いた作品。



「サードプレイス」
ささき あり／作

中高生が利用できる施設、サプリガーデン。学校や家では自分らしくいられない、きみたちだけの第三の居場所、「サード・プレイス」。困っている子どもたちを応援する4つの短編連作。



「スイマー」
高田 由紀子／著

向井航、小学6年生。東京の強豪スイミングクラブで速くなることだけを目指して打ち込んできたが、挫折し水泳から遠ざかっていた。そんな時、引っ越した佐渡で海人たちと出会い…。



「相手の身になる練習」
鎌田 實／著

相手の身になるということは、自分の視点からだけではわからなかったことを理解できるようになること。世界には多様な人、多様な生き方があることに気づくこと。そして、人間の脳には、相手を幸せにすると自分も幸せになる仕組みがあることも説明します。



「死にざま図鑑」
沖元 友佳／著

日本の歴史上の人物の「死にざま」にスポットを当てて、その生涯を紹介。ざんねんなラストを迎えてしまった、あの人物の大失敗とは？偉人たちの最期の姿を通じて、よりよく生きる術を知る歴史雑学本です。



「はじめて世に出る青年へ」
渋沢 栄一／著

大きな志の次に小さな志を立てよ。弱い心は「七情」を正しく働かせて克服。逆境には天命と人為の2種類がある…。渋沢栄一著「はじめて世に出る青年へ」を現代語訳し、難解と思われる語句に解説を加えた一冊。



「ドキュメント」
湊 かなえ／著

“人と人。対面でのコミュニケーションがむずかしくなった今だからこそ、「伝える」って何だ?”ということを、青海学院放送部のみんなと、真剣に考えてみました。”一湊かなえ 高校部活小説です。



「チルチルサクラ」
いぬじゅん／著

空美姫花はぽっちゃり系高校1年生。入学式の日桜の下で鮮烈な出会いをした、美形の先輩で作家の卵である悠真の所属する文芸部に入る。ある日、事故に遭いかけた姫花は、来世の自分に「事故で死ぬ運命だった」と告げられ…。



「美術館って、おもしろい！」
モラヴィア美術館／著

絵で見てわかる、美術館のすべて。美術館の歴史やしごと、展示会のつくりかたなどを楽しく解説します。子どもはもちろん、ヨーロッパ美術の流れを教養として知りたい人にも最適です。



「未来の自分に出会える古書店」
齋藤 孝／著

中学二年生の「メッシ君」と、高校二年生の「ゴッホ君」の兄弟。二人の家の近所に、古書店「人生堂」が開店。店主のサイトウさんは、二人がさまざまな悩みを相談するたびに、何冊かの本を教えてください。本との出会いを通して二人の成長を描く物語。



「はじまりの24時間書店」
ロビン・スローン／著

ひとりの大学図書館員が一冊の貴重な書物を見つけ出す使命を帯びてサンフランシスコを訪れた。ペナンブラという風変わりな名前を持つその青年は、手がかりを求め夜遅く一軒の小さな書店に行き着き…。



「14歳からの生物学」
サリー・ヒル／著

コロナ禍の下、十代の妊娠相談が相次いでいる。背景にあるのは「ヒトの生物学」の不在だ。本書には感染症から薬物依存に至るまで、十代が自分をいかに守るか、その術がシンプルに語られる。コロナ時代を生き抜く武器としての「理科」への誘い。



「牧野富太郎
日本植物学の父」
清水 洋美／著

日本全国の野山を歩いて集めた標本は40万点。調べて分類し、名前をつけた植物が1500種類。「日本の植物学の父」とよばれる牧野富太郎の94年にわたる人生を描く。

新しいシリーズ・シリーズの続き



『神様の御用人9・10』



『珈琲店
タレーランの事件簿6』



『保健室経由、
かねやま本館。1～3』



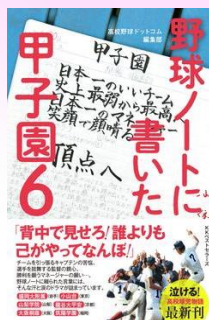
『世界ショートセレクション
16・17』



『新謎解きは
ディナーのあとで』



『本好きの下剋上
第5部1～5』



『野球ノートに書いた
甲子園6』



『54字の物語 史』
『旅する54字の物語』